

かいていばん  
2024改訂版

よっ か いち こう が い じん けん  
**四日市公害と人権**

わす  
～忘れないように～

よっ か いち さいせい こうがい し みんじゅく  
**四日市再生「公害市民塾」**



# も く じ

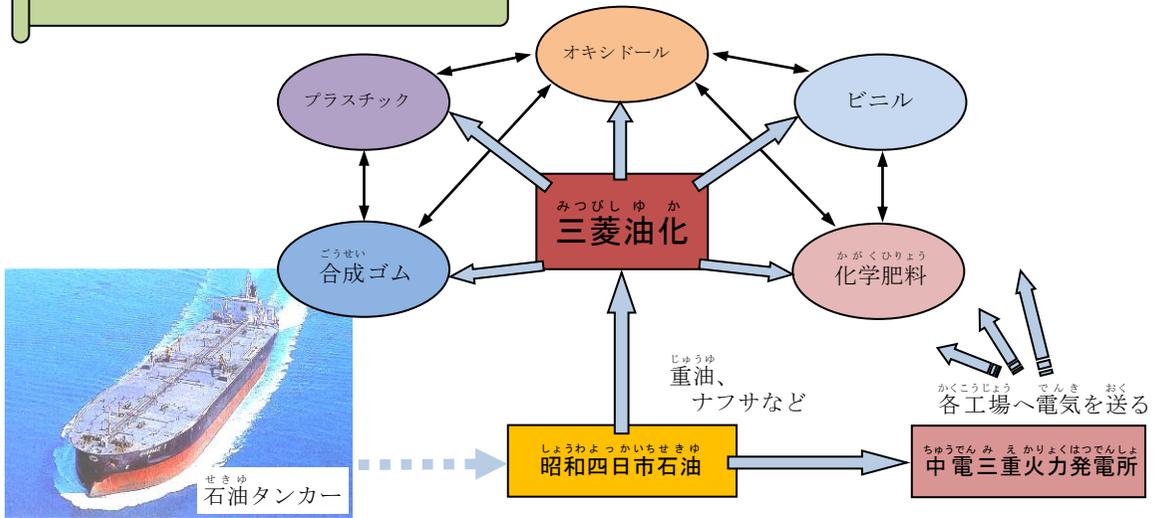
1. コンビナートと私たちの暮らし	1
① コンビナートって何？	1
② 石油からつくられるもの	2
③ コンビナートができて～野田之一さんのお話～	4
2. 四日市公害がおこったわけ	5
3. 四日市ぜんそくとは	5
4. くさい魚～公害は海からはじまった～	7
① 磯津漁民一揆	7
② 市長を囲む会で…～野田之一さんのお話～	8
5. 四日市公害裁判～判決までの5年間～	9
① 裁判を起こそう～野田之一さんのお話～	9
② 子どもたちの願い	10
③ 公害反対運動のひろがり	12
④ まわりの様子は…	13
⑤ 学校では…	15
6. 四日市公害裁判「原告勝訴！」	16
① 被告（企業）側の主張	16
② 原告本人陳述	17
③ 遺族の意見陳述	18
④ 判決「原告患者勝訴」	19
7. 裁判の成果とその後	20
8. 残った問題	21
① 患者たち	21
② 忘れないように ～語り部を続けた野田さん、澤井さん～	21



# 1. コンビナートと私たちの暮らし わたし

## ① コンビナートって何? なに

図：コンビナートができたころのしくみ



まず「石油」とは、地中から出てくる黒くてどろどろしていて燃えやすい液体のことで、くみ上げて何も手をつけていないままのものを「原油」といいます。ここからガソリン・灯油・重油などがつくられ、車の燃料をはじめ様々な工業製品の材料や、火力発電の燃料として使われています。今や石油は、わたしたちの生活になくてはならないものになっています。

タンカーという大きな船にのせられて外国から運ばれてきた原油は、各工場が必要とするいろいろな形に姿を変え、はりめぐらされたパイプの中を通過してそれぞれの工場へ運ばれます。

「コンビナート」という言葉は、ロシア語では「結合」という意味です。石油を原料として製品をつくっているいくつかの工場が、効率よく仕事をするために一つの場所に集まり、パイプで結ばれてできた工場地帯のことを言います。四日市の場合、第1コンビナート、第2コンビナートをあわせると、およそ小学校650個分の広さになります。

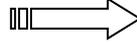


↑ 四日市市立塩浜小学校から見たコンビナートの風景

せきゆ  
②石油からつくられるもの



☆ 私たちの部屋から石油でできているものを取り除くと…



☆ なんと、こんな部屋になってしまうのだ!

↑ 四日市市ホームページ「四日市公害資料館」(2004年当時)より

「私の生活の中での石油たち」

千葉県 ○○小学校 6年 ○○○○さん

朝6時、目ざまし時計のベルが鳴る。時計はプラスチック製である。(ここに石油がかかわる) パジャマをぬいで洋服に着がえる。Tシャツは綿100パーセントだが、スカートはポリエステル100パーセントが入っている。ついでに妹のスパッツも。ポリウレタン20パーセント、ナイロン80パーセントが入っている。母が時々使うストッキングもナイロン製である。(ここにも石油がかかわる) 朝食の用意を手伝う。我家は、毎朝おじいちゃんが納豆を食べる。パックは発ぼうスチロールである。(ここにも石油がかかわる) ごはんが終わると歯をみがく。チューブから歯みがき粉、さらに歯ブラシ。プラスチック製である。もちろんコップも。(ここにも石油がかかわる) 給食用のはしを持つ。はしは木だが入れ物はプラスチックである。(ここにも石油がかかわる) 学校に行く。少し歩くと「止まれ」とペンキで書いてある。もっと進むと信号がある。信号の周りはプラスチックで、横断歩道はペンキで書いてある。(ここでも石油がかかわる) 学校に着き、机の引き出しを引き、教科書を入れる。引き出しはプラスチックである。(ここにも石油がかかわる) 1時間目筆箱を出す。筆箱はビニール製である。(ここにも石油がかかわる) 3時間目、図工の時間に絵の具を出す。パレットと水入れはプラスチックである。さらに5時間目、体操服に着がえる。体操服には綿70パーセント、ポリエステル30パーセントが入っている。(ここにも石油がかかわる) 家に帰る。私は毎週火曜日、英語に通っている。教科書を持ち自転車に乗った。サドルはビニール製だ。(ここ

に石油がかわる) 帰り道、車がたくさん通っているのを見た。車はガソリンで動いている。(ここでもまた、石油がかわる) 家に着く。台所では母がビニール袋から魚を出していた。(ここでも石油がかわる) 歯をみがいてからお風呂に入る。シャンプー・リンスの入れ物、お風呂のふた、おけなどはプラスチック製である。(ここにも石油がかわる)

こうしてみると、たった1日であるが、私の生活の中には石油製品が欠かせない物となっていることがわかる。大切なことは、その石油製品をどう使いこなすかによって、資源がムダになるか生かされるかだと思ふ。ゴミを増やして、自然界をこわしてしまうのも人間ならば、「リサイクル」という知恵を生かし、自然界をやさしく見守り、共に生きることができるのも人間だと思ふ。私は人として後の方を選びたい。“石油”という限りある資源を大切に、私たちの生活の中に上手に組み入れることとムダを最小限におさえることがこれから私達が考えていかなければならないことだと思ふ。プラスチックやビニールなどの石油製品は、くさることはなく、自然界にもどることはないのだから・・・。

(1999年「石油の作文コンクール」優秀作品より)

～便利なくらしを支える石油化学製品～

便利な くらしを 支える	快適なくらし	テレビ、冷蔵庫などの家電製品、住宅の屋根、かべ、窓サッシ、カーテン、カーペットなど、車の内装材、シート、タイヤ、バンパーなどの多くの部品など
	おいしいくらし	釣り糸、漁網、ペットボトル、ラップ、肉や魚が入っているトレイ、パック、カレーやラーメンなどのインスタント食品が入っているプラスチック容器など
	きれいなくらし	家庭で使う洗剤、シャンプー、リンス、歯みがき粉など
たの 楽しい くらしを つくる	装 う	衣類の素材 (ポリエステル、ナイロンなど)、スポーツウェア、シューズなど、テーブル、イス、プラスチックの食器など
	たの 楽しむ	スキー、スノーボード、自転車、おもちゃなどに使われている様々なプラスチック

### ③コンビナートができて…～野田之一さんのお話～

昔、私たちが生まれたときは、こ  
 こは田園地帯で、百姓と漁師が  
 生活しとってき、だからねえ、公害  
 というものは何にもなかったんや  
 ね。ところがねえ、工場ができたわ  
 け。この工場ができた時点ではね  
 え、私らこの地域の人、非常に喜  
 んだ。大きな工場ができるんやない  
 か。日本の中心になる三菱やそんな  
 んがきてくれて、大きな工場を造っ  
 てくれるんやと、こりゃあ、四日市  
 も大都会になるんやと喜んだ。



↑コンビナート図。中でも磯津(※)は、冬の  
 季節風で第1コンビナートの煙の風下にさら  
 され、ぜんそく患者が多発した地域である。

野田之一さん (元公害病認定患者・裁判原告者)

1931(昭和6)年12月16日 ~ 2019(平成31)年1月25日 享年87

磯津で漁師をしていた。公害がひどかった頃、ぜんそくの発作が起  
 こりやす  
 い夜は塩浜病院の空気清浄室で過ごした。医者は反対したが、漁の時間にな  
 ると病院を抜け出して海に出て行く生活を長く送っていた。

漁師を続けながら、「語り部ボランティア」として自分の公害体験を子ども  
 たちに語り継ぐ活動を続けた。野田さんは、『昔は学校の帰りに鈴鹿川を歩い  
 てわたりながら、カレイやカニ、エビなどを手づかみでとり、晩

ごはんのおかずにしてもらった。』『公害は  
 磯津の海を破壊した。あの豊かな自然を  
 今の子どもたちに自慢できないのが漁師  
 として何より悲しい。』と語った。



## 2. 四日市公害がおこったわけ

- ① 経済の発展が優先され、市民の生活を守ることが後回しにされた。
- ② 石油化学コンビナートが、住宅にとり合っつけられた。
- ③ コンビナート内の石油化学工場では、石油からものをつくるのに、体に害のあるガス（亜硫酸ガス）を出した。また、汚れた水をそのまま海に流した。
- ④ 市民を守るための法律がなかなか整えられていかなかった。

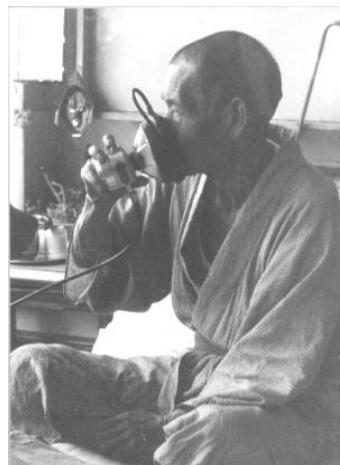
## 3. 四日市ぜんそくとは

### 体にどんな害があるのか

工場では燃料として重油を燃やします。重油が燃やされると「亜硫酸ガス」というガスを発生し、それが主な原因となって呼吸器（肺やのど）の病気になることがあります。

はじめはコンビナートに近い塩浜地区で発生しました。その後、第2コンビナートがつくられたり、高いえんとつがつくられたりしたために、海岸部の全域に被害が広がり、「塩浜ぜんそく」と呼ばれていたのが「四日市ぜんそく」と呼ばれるようになっていきました。

「四日市ぜんそく」と呼ばれる病気の主なものに、「気管支ぜんそく」があります。急に胸が押さえつけられるように苦しくなる病気で、息をするのが苦しい上に、激しいせきが出たり、たんが出たりすることがあります。赤



↑酸素吸入をする患者さん。  
ボンベには三菱油化のワッペンがはってある。

ん坊や小学生くらいの子どもや、老人がたくさんこの病気にかかりました。

せきやたん、息切れなどの症状が長く続いて苦しい生活をしなければならぬ人が増えました。中には「肺気腫」といって、肺の細胞がおかされて呼吸困難となり、酸素吸入をしなければならぬ状態になってしまった人々もいます。症状が悪化して亡くなってしまった人々、苦しみのあまりに自殺した人もいました。

またこれら四日市の公害病は、「発作」を起こさないかぎり見た目にはわかりません。発作は夜中や明け方によく起こりました。

## 「こうがい」

ぼくたちの学校のそばに、こうがいをだすこうじょうがいくつかあります。日本で一ばんこうがいのほげしいところは四日市です。こうがいはくさくてたまらないときがたくさんあります。こうがいの中に、目に見えないくらいにつぶつぶが、風にふかれてとんできます。そのつぶつぶをすうと、からだのよわい人はひじょうにのどがはしかくてくるしみます。こうがいひどいと天気がぼうっとして、とおくがはっきりみえませぬ。

つぶつぶやけむりのようなこうがいのほかに、ありゆうさんガスというこうがいがあります。このありゆうさんガスが一ばんからだにわるいそうです。いま、しおはまびょういんに、にゆういんしているこうがいかんじゃや、また、おうちにいるこうがいかんじゃたちは、みんなこのガスで、まい日、くるしんでいます。

この間、ぼくのおとうさんのよく知っている人が、しおはまびょういで死にました。この人は、こうがいで、声が出なくなってお話ができなくなったそうです。

ぼくたちは、こうがいのひどい日の学校のゆきかえりには、マスクをはめたり、うがいをしたり、かんぷまきつをして、こうがいにまけないからだをつくろうといっしょうけんめいです。

けれども、こうがいのほうが、ずつつよいです。ぼくはよくかぜをひいて、のどがいたいです。せきもよくでます。

こうがいは、こうばがださないようにするのが一ばんよいことです。

そして、みんなが元気にあそんだり、おしごとができるすみよい四日市に早くしてほしいです。



↑子どもたちは、活性炭入りの黄色い公害マスクをつけていた。

## 4. くさい魚～公害は海からはじまった～

石油化学工場は、たくさんの水を使いました。そして、工場で使われたよ  
ごれた水を海に流していたのでした。そのために、こんな事が起こりました。

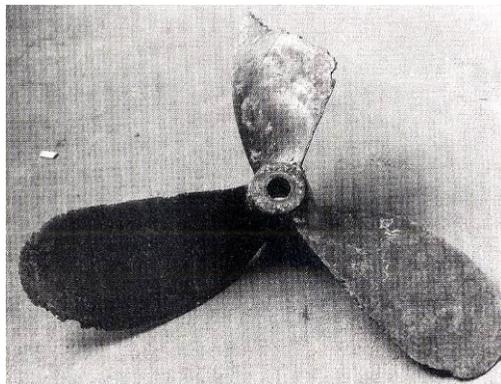
### ①磯津漁民一揆

1960年（昭和35年）3月、東京築地の  
中央卸売市場は、「伊勢湾の魚は油くさ  
いので、嚴重に検査する。」との通告を出  
しました。この通告は全国の魚市場にも  
流れました。伊勢湾の魚の中でもとくに、  
磯津という名が出ただけで、買ったとき  
やキャンセルがおき、漁民の生活はとても苦しくなりました。

伊勢湾の魚は、水がきれいで豊富な木曾川の真水と、海水がほどよく混ざ  
り合っ、て、「うまい魚」「高級魚」と言われてきました。夏にとれるスズキな  
どは、相当の高級魚だともてはやされていましたが、1960年ごろからは、く  
さいから一銭の金にもならないと言われるようになりました。出荷しても売  
れずにもどってくるし、ネコも食べないありさまでした。

漁民たちは漁協を通して、県・市や会社に「なんとかしてくれ」と交渉し  
ていきましたが、最終談判は決裂。6月21日午後3時過ぎ、漁民の代表20人が  
会社を訪れて実力行使を宣言。堤防の上から用意してあった旗を振りました。  
合図に応じて、海から約300人の若い漁民が漁船で排水口へ向かいます。陸か  
らも老人や主婦たちが続々と会社の前や土手に勢ぞろいしました。そこには  
警官隊80人と私服警官30人も来ており、会社を固めていました。

勢ぞろいしたところで漁民側が、「10分間の間に回答がなければ、水門を  
ふさぐ。」とあらためて最終通告しましたが返事はなく、用意をしていた古船  
とカマス 3000個を沈めにかかったとき、塩浜連合自治会長さんが現場にか  
けつけ、会社側ではなく漁民に向かって土下座し、「知事に会わせて解決を



↑漁船のスクルー。塩酸や硫酸など  
の工場排水により、くさるのが早い。

はかるから、今日のところはやめてくれ。」とお願いしました。そして実力行使はとまりました。

～野田之一さんのお話～

漁民たちは、誰が見ても「漁師はよく辛抱した」と言われるくらいねばり強くやろうとやってきたが、ついに”実力行使も辞せず”との強い態度を固めた。若い漁師は、「どうせ食べぬのならブタ箱でもどこにでも行く」といきりたち、カミさんたちは、「だれかが警察に捕まったらその家族を援助しよう」と話していた。

1日おいて当時の三重県知事が現地にやってきて、魚の試食をしました。知事は「くさい」と言って吐き出しました。でも会社の人には「おいしい、おいしい」といって食べていました。知事が魚を吐き出したとき、漁民の中から万歳が起きました。「これで、やっと、わかってもらえると・・・。」しかし1年3ヶ月後の1964年12月、排水口を変えろとの要求は結局実現されず、3600万円の補償金が支払われて終わりという形になりました。若い漁民が手にした金はわずかに数万円というもので、苦い敗北感が残りました。



↑亜硫酸ガスをふくんだ雨は、朝顔の花を脱色させて白いはん点を作る。

②市長を囲む会で…～野田之一さんのお話～

わしら磯津の漁師がさ、この状態ではなっともならんでって、市長を囲む会を41年の5月に塩浜公民館でやったときにねえ、当時の市長は、はっきりわしらに、「いまだき漁をしている生活なんておかしいんで、他のことを考えるべきだ。敗戦国の日本がこんだけ今日の姿に立ちなおったんは化学の力や、コンビナートのおかげや。人間のある程度の犠牲はやむをえん。」ってなことを言ってねえ。

そいで、「漁師やっとするようなことでは、将来、取り残されるで、わしはそれが心配や・・・。」って言ったでねえ。

# 5. 四日市公害裁判～判決までの5年間～



↑ 裁判を起こした9人の原告患者たち。

公害による住民の健康など関係がないとでも言うように、工業の発展を優先にした計画がどんどん進められていきました。公害はひどくなる一方なのに、第2コンビナートがつくられ、ぜんそく患者は増え続けました。ついには自殺する患者が出るまでになり、「このままでは死ぬしかない、裁判にかけよう。」と、1967年9月、磯津の患者9人が訴えをおこしました。

## ① 裁判を起こそう

～野田之一さんのお話～

### 《うったえの内容》

- ・けむりがまちをおそっている。
- ・けむりが病気の原因である。
- ・工場の責任である。
- ・仕事の補償をしてほしい。

工場に訴えに行ったら、『うちじゃない』また次の会社に行ったら、『うちじゃない』次の会社に行っても『うちじゃない』。そういったらいったいどこやと、ねえ、私その時に非常に残念に思ったことはねえ、『うちじゃない』ということはねえ、『俺じゃない、おまえだ』ということと一緒にや。罪を人になすり合いするその根性にねえ、本当に私は頭にかちんときた。『よしそうか、おまえらそんな気持ちか』と。それで、今度は、行政に行った。『こんな、俺しらん、工場のいうとることは俺は、しらん。国の規制をちゃんとまもつとる工場が操業しとんのやから、俺はしらん』と。『ほんとにいったいどこへ行ったらええのや。俺は知らん、俺は知らん。』そうこうして悩んでおるときに、澤井さんとかそういう善良な人に、『おまえら、そんなにくるしんどのやけど、こういう助かる道があるんやぞ。』と、法律があるから、その法律に照らし合わせてみなさいと言われて、そうかと、どうせあかんもんならな、いっぺん裁判、日本の国に法律があったら裁判に問おうじゃないかと、裁判を起こす気になった。

さわいよしろう こうがい きろく かい  
澤井余志郎さん (公害を記録する会)

しょうわ ねん がつ みつ か へいせい ねん がつ にち きょうねん  
1928(昭和3)年8月3日 ~ 2015(平成27)年12月16日 享年87

やく ねん  
約50年にわたり、四日市公害問題について記録する活動を続けた。くさい  
さかな りょう  
魚で漁ができない、ぜんそくになって働けない人たちの思いや生活のあり  
ようを聞き取り、それをガリ版文集にまとめて発行し続けた。『こうしたこ  
とは一人でもできる。一人でやっても、記録された被害者たちの生活と意見  
は読まれる。読まれ、知られることによって、少なくとも反公害にとって10  
人以上の力になるだろうと思つたし、助力になると思つた。』

とも ほんこうがいうんどう と く なかま かんじや  
共に反公害運動に取り組んだ仲間や、患者

さんとのつながりを大切にし、定期的な

べんきょうかい よっかいちさいせい こうがいし じんじゆく  
勉強会 (四日市再生「公害市民塾」)

ひら かつどう つづ  
も開いて活動を続けた。



## こ ねが ②子どもたちの願い

こうがいぜんそく

しおはましよう ねん  
塩浜小二年 ○○○○

ぼくのおかあさんは、こうがいぜんそくでながいことびょういんで、にゅういんして  
いました。

ぼくは、まん二さいのときからおかあさんといっしょにびょういんにいました。あめ  
ふったり、曇ったときなどは、みんなぜんそくのほっさがひどいので、ぼくはかんごふ  
さんのところへ、たのみに行つてやりました。

ぼくが、あまりじょうずに、ちゅうしゃといえないので、みんなの先生たちが、よく  
わらいました。

く が つ じ ゅ う る く に ち  
ことしの九月一六日のあさ、おかあさんはひどいほっさがおこつて、「くるしい、い  
きがつまる。」といいながらいしきがなくなって、きゅうきゅう車でびょういんにはこ  
ばれて行きました。

くるま  
車のなかですぐにさんそきゅうにゆうにかけられていても、なかなか気がつかずに、  
びょういんで先生たちが、三人でちゅうしゃをしたりしていましたが、三時間たつてか  
ら気がついたそうです。

おも  
ぼくはおかあさんがしんでしまうかと思つて、しんぱいでしんぱいでなりません  
でした。

その日は、みんなよその人たちもひどいほっさがおこっていました。ぼくたちのともだちにも、たくさんぜんそくで、くるしんでいる子がいます。そんな子を見るとかわいそうでなりません。

ぼくたちにもっときれいな空気がすえるようにしてほしいと思います。学校からかえるとき、こうじょうのほうをみると、ものすごいきけむりが出でています。そんなときは、おかあさんのことを思いだして、にくらしくなることがあります。

(1969年5月)

早くきれいな空気を

しおはまちゅういちねん  
塩浜中一年 ○○○○

私の母は、公害ぜんそくで入院しています。

雨の日や、どんより曇った日などは、ぜんそく発作もひどく、うなりながら朝の仕事をしています。

私たちは、母が入院したばかりのときは、本当に淋しい悲しい思いをしました。

わたしが三年生の時に、見るに見かねて、福井のおばさんが、妹といっしょに預かってくれました。みんなとても優しく大事にしてくれましたが、それでも妹は、母のいない家でもいいから帰りたいといて、毎日泣いてばかりいて、おばさんを困らせてばかりいました。とうとう一ヶ月余りで帰ってしまいました。

ひとりで帰った妹のことが心配でたまりません。

ある日、妹は淋しさのあまり病院にいる母の所へ行く途中、遊びながら歩いていて、川に落ちておぼれかかっていると知らない人に助けられました。

私はそれを聞いてすぐ帰りました。妹一人がお人形で遊んでいるのを見ていて、妹が、私の顔を見るなり、わあっと泣き出しました。私たちはしばらく抱き合っ、泣いていました。そのことがあってからは、母は悪い体をおして毎日、家に帰らしてもらおうようになりました。私たちも、母に長生きをしてもらいたいと思って、自分たちでできることは、なるべく母の手を借りないようにしています。

早くきれいな空気を吸って、みんな幸せな日を送れるようにしてください。病気で苦しんでいる人たちのためにも、お願いします。

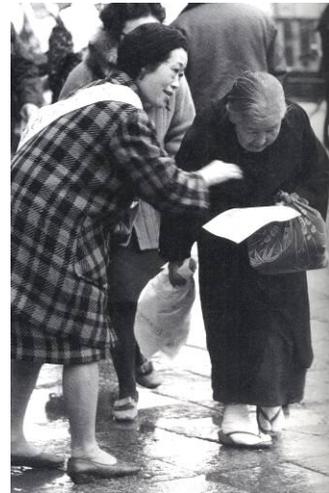
(1968年11月)

この二人の子のお母さんは、公害裁判の原告患者9名の中の一人で、裁判途中の1971年(昭和46年7月)、入院先の県立塩浜病院で、ぜんそくの発作のため亡くなりました。38歳でした。

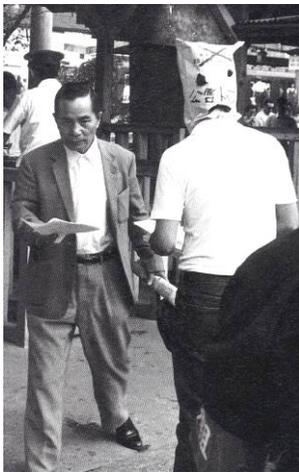
こうがいはんたいうんどう  
 ③公害反対運動のひろがり



↑第2コンビナート近くにある西橋北小学  
 校区の運動会。ひどくなる公害への抗議を  
 こめて…。



↑たくさんの人が支援活動に積極的に  
 関わり、タスキがけでがんばった。



←公害発生源となった工場で働く若い労働者が、紙袋  
 で素顔をかくして近鉄塩浜駅前前で公害反対をうった  
 えるビラ配りをした。素顔でビラ配りをしていた別  
 の女性は、そのあと配転させられた。



↑弁護団の会議は、いつも夜更けにまで  
 およんだ。



←「公害をなくすために勉強しなければ、みんなが  
 団結していかなければ」。子どもと母親を対象に  
 した勉強会「反公害・磯津寺子屋」が始まった。

#### ④まわりの様子は…

### ☆勝てるわけないぞ～澤井余志郎さんの記録から～

その時に言われたのは、「これだけ、立派に出来上がったコンビナートを相手にして、勝てるわけないじゃないか。」もし、裁判で負けたら、コンビナートの方から逆に訴えられたら、「家の財産がなくなっちゃいけないか。」という心配を親類の人もしました。「裁判をしたら財産をなくしちゃう。」ということは昔からよく言われていますけれども、「それだけ大きなコンビナートを相手にして、裁判には勝てっこない。」というふうにみんなが思っていたから、「もうコンビナートを相手にして裁判をやるなんていうことはとんでもないことだ。」ということをおもった人がたくさんいたんですね。

そして、公害病患者になっても、世間の人は知らないんです。それで、ずいぶんぜんそくで苦しむ患者さんがたくさん増えてきたんだけど、四日市の街中の人、あるいは公害反対運動で公害をなくさないといけないということで頑張っている人も、実は公害患者さんがどんな病気の様子なのか、どんな生活をしているのか、どんなことを思っているのか、そういうことを知らないということもあったんですよ。しかし、自分の子供や親の体が悪いという人はもう一生懸命になっていましたよ。やはり自分の身に降りかかってこないで、「何しとんのや。」という見方でしたね。



↑住宅となり合っているコンビナート。炎の明かりで夜でも新聞が読めたという。

### ☆応援してくれる人が少ない～澤井余志郎さんの記録から～

まず9人が裁判に立ち上がったんです。そして、まず初めに、裁判にかかる一億円のお金をどうしようというわけで、まず支援団体に頼んでみました。とにかく、東京へ行こうということで、そこでまず三百万円ものカンパをつくらせてくれたんです。その当時三百万円と言ったらたいしたもんですよ。

にかく裁判のお金<sup>さいばん かね</sup>ができたということで、ほっとしました。

さらに、東京<sup>とうきょう</sup>の駅前<sup>えきまえ</sup>で支援<sup>しえん</sup>を訴<sup>う</sup>えたん<sup>うった</sup>です。けれど、私<sup>わたし</sup>らに反対<sup>はんたい</sup>する団体<sup>だんたい</sup>もいまして、私<sup>わたし</sup>らの回り<sup>まわ</sup>を取り巻<sup>と</sup>きましてね。恐<sup>こわ</sup>かったですけれど、もうやるしかない<sup>おも</sup>と思って<sup>おも</sup>やった<sup>おも</sup>んです。

帰<sup>かえ</sup>ってきて、それ<sup>よっかいち</sup>から、四日市<sup>しんみん</sup>の市民<sup>しんみん</sup>にも、「青空<sup>あおぞら</sup>バッチ」という<sup>つく</sup>のを作<sup>つく</sup>って、それを1つ<sup>えん</sup> 100円<sup>う</sup>で売<sup>よっかいち</sup>って<sup>よっかいち</sup>たんです。「四日市<sup>あおぞら</sup>に青空<sup>と</sup>を取り戻<sup>もど</sup>そう。」「公害<sup>こうがい</sup>をなくそう。」ということ<sup>よっかいちしんみん</sup>でね。それでも、四日市<sup>よこ</sup>市民<sup>む</sup>であつても、横<sup>い</sup>を向<sup>い</sup>いて行<sup>ひと</sup>ってしま<sup>ひと</sup>う人<sup>ひと</sup>がほとんど<sup>ひと</sup>でした。買<sup>か</sup>おうと<sup>か</sup>しな<sup>か</sup>い<sup>か</sup>んです。人<sup>ひと</sup>通<sup>とお</sup>りの多<sup>おほ</sup>い四日市<sup>おほ</sup>の近鉄<sup>よっかいち</sup>の前<sup>きんてつ</sup>です<sup>まえ</sup>よ。

しかし、煙突<sup>えんとつ</sup>は高<sup>たか</sup>くな<sup>あくしゅう</sup>った。悪臭<sup>あくしゅう</sup>はしな<sup>あ</sup>くな<sup>あ</sup>った。そんなこと<sup>あ</sup>になると、市民<sup>しんみん</sup>も「もう公害<sup>こうがい</sup>は終<sup>お</sup>わ<sup>お</sup>った。」という<sup>い</sup>ふう<sup>い</sup>に言<sup>おも</sup>っていた<sup>だ</sup>のを思<sup>おも</sup>い出<sup>だ</sup>します。

そういうこと<sup>えんとつ</sup>ですから、市<sup>し</sup>もにおい<sup>すく</sup>が少<sup>えんとつ</sup>なくな<sup>たか</sup>ったり、煙突<sup>えんとつ</sup>が高<sup>たか</sup>くな<sup>たか</sup>ったりした<sup>たか</sup>ので、市民<sup>しんみん</sup>に「もう公害<sup>こうがい</sup>は終<sup>い</sup>わ<sup>い</sup>った。」という<sup>おも</sup>ふう<sup>おも</sup>に言<sup>おも</sup>われると、「そ<sup>い</sup>うかな。」という<sup>おも</sup>ふう<sup>おも</sup>に思<sup>おも</sup>いました。



↑当時売られていた「青空<sup>あおぞら</sup>バッチ」  
直径<sup>ちようけい</sup>1.5cmで青空色<sup>あおぞらいろ</sup>をしている。

## ☆広がり<sup>ひろ</sup>つづ<sup>つづ</sup>けるコンビナート

被害<sup>ひがい</sup>者は増<sup>ふ</sup>える一方<sup>いっぽう</sup>なのに、「霞ヶ浦<sup>かすみがうら</sup>の第3<sup>だい</sup>コンビナート<sup>でじまほうしき</sup>は出島<sup>でじま</sup>方式<sup>ほうしき</sup>でやりますから公害<sup>こうがい</sup>の心配<sup>しんぱい</sup>はありませ<sup>や</sup>ません。」「みそ屋<sup>みそや</sup>の前<sup>まえ</sup>を通<sup>とお</sup>ればみそ<sup>みそ</sup>のにおい、コンビナート<sup>コンビナート</sup>ができればコンビナート<sup>コンビナート</sup>のにおい<sup>のにおい</sup>がする<sup>する</sup>のはあたり<sup>あたり</sup>まえ。」「と、長引<sup>ながび</sup>く裁<sup>さい</sup>判<sup>ばん</sup>を横目<sup>よこめ</sup>に新<sup>あたら</sup>しい第3<sup>だい</sup>コンビナート<sup>コンビナート</sup>の建<sup>けん</sup>設<sup>せつ</sup>は進<sup>すす</sup>められ<sup>すす</sup>ました。

→第3<sup>だい</sup>コンビナート<sup>コンビナート</sup>  
の建<sup>けん</sup>設<sup>せつ</sup>がすす<sup>すす</sup>め<sup>すす</sup>ら<sup>すす</sup>れて<sup>すす</sup>い<sup>すす</sup>く。



↑霞ヶ浦<sup>かすみがうら</sup>のうめ立<sup>た</sup>ては、次々<sup>つぎつぎ</sup>と  
四日市<sup>よっかいち</sup>の海<sup>うみ</sup>をなく<sup>なく</sup>して<sup>なく</sup>い<sup>なく</sup>く…。

## ⑤学校では…

### ☆公害病はうつる？ ～小1の子どもが公害病患者の父親の話～

子どもの学校名は聞かんでください、公害病と言われるとかわいそうなので届けてないのです。先生方も努力はしてもらっているのでしょうかね……。子どもらで遊んでいると、母親が自分の子どもを連れてきて、「公害病の子と遊んだらあかん、うつるよって」って言うんです。親がそういつて聞かせれば、子どもはそう思うでしょう……。そのために、学校でいじめられてはいかんとおもうと思って届けていないんです。長男は、「殴られても、僕はケンカしやへん」と言っていますが、萎縮せんかと、本当に心配です。

### ☆「ずる休み」といわれて～澤井余志郎さんの記録から～

磯津で当時小学校3年生の、ある女の子がいたんですけども、その子どもやっぱり公害病になって、認定患者になったんです。それで、その子どもやっぱり明け方に発作を起こす。一生懸命呼吸をしようと思うから、もう力を使い果たしたんです。それで、あくる日の朝になると、もうぐったりしているので、お母さんが、「この子供を起こして、学校に行きなさいということ言うに忍びない。」というので、つつい学校を休ませちゃう。すると、近所の人「あそこの家の子供は、学校をずる休みしている。」ということで、「言われるのがつらい。」とそのお母さんは言っていました。

それで、発作を起こしたその3年生の子供は、もうあまりにもその発作が苦しいので、「もうお母ちゃん殺してくれ。」ということ、しよつちゅう言うんです。それくらい、夜中にひどい発作を起こすんだと言っても、近所の人でさえも、それは知らない。

それで、その子のお母さんが、「学校をズル休みするなんてと陰口を言われてつらい」というので、「夜中に発作を起こしてもほっとくから、その発作を起こしたところへ来て写真を撮ってくれ。」ということ頼まれたんです。



↑ 塩浜小学校に残るうがい場。子どもたちは1日に6回、うがいをした。



↑ 鈴鹿川にかかる「礮津橋」は、住民たちの生活をつなぐ橋でもある。

## 6. 四日市公害裁判「原告勝訴！」 ~1972年7月24日~

### ① 被告（企業）側の主張

これまで詳しく述べてきたように、疫学、医学的、気象的にみても、硫酸化合物と、“四日市ぜんそく”とは関係がないことは、ご理解いただけるはずである。

特に、問題となっている公害病の症状は、昔から、どこにでもある、ごくありふれた病気である。

このありふれた病気を、他の地域でおこった公害のような医学的にはっきりした特殊な病気と同じように言われてはかなわない、というのが我々被告側の気持ちである。

原告側は、「亜硫酸ガスが有毒であることは知っていたはずだ。」と言うが、問題となっている亜硫酸ガスは、きわめて低濃度のものであり、しかも、それについては「有毒でない」というのが世界的にも認められつつある現在において、「注意義務を怠った。」と言われる筋合いは全くないのである。

さらに各工場とも、硫酸化合物の排出については細心の注意を払い、その時代における最新技術の設備によって量を押えるよう努力してきたのである。したがって法律上、故意ではないことはもちろん、過失もないのである。

また原告側は、「共同不法行為」と言っているが、世間が「第一コンビナート」と呼んでいるだけで、それぞれ関連性のない企業どうしの「共同性」を論じることは、法律上まったく無意味である。

げんこくほんにんちんじゅつ  
②原告本人陳述

の だ ゆきかず りょうし さい きかんし はいきしゅ  
野田之一さん（漁師、39歳、気管支ぜんそく、肺気腫）

さいばんちょう なが あいだ くろう  
どうも裁判長さん、長い間ご苦労さまでした。

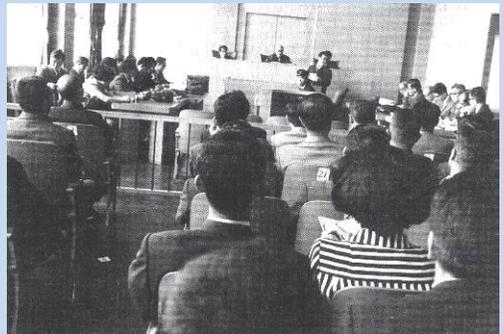
いま わたし なが あいだ き わたし いったいなに  
今まで私らも長い間聞いていますのに、この私らが一体何ゆえにこの  
びょうき になったかと…そういうところに疑問持っておられると思いますす  
けれども…私らの故郷が、企業が来る以前からこんな病気があったか、な  
かったか…一番よくご存じは裁判長さんです。私はそうおもっています。

きぎょう かた ほうりつ せんせいが たつ  
それに企業の方は、法律の先生方をようけ連れてきて、そうして、うち  
じゃない、うちじゃない…一体磯津へどこの煙がきたというんです。

いま き げんこくちんじゅつまえ ひこくきぎょう しゃ さいしゅう  
今も聞いていますれば、（原告陳述前に、被告企業6社それぞれの最終  
ちんじゅつ 陳述があった）、うちとこじゃない、うちとこじゃない…と。そうす  
ると、磯津は、地から煙がでてきたんか。あまりにも無責任なやりとり  
じゃありませんか。

きぎょう かた きぎょうぬし かた せんせい たよ  
そうして、企業の方、企業主のその方も、そういう先生たちを頼りにし  
て、自分らのしとることをごまかす。またごまかすような気持ちで…。

よ なか とお あま かんが けつ  
これで世の中が通っていくと…そんな甘い考えでおるんですか。決し  
わたし きょうはく  
て私は、脅迫じゃありませんけれども、あんたらがそんな甘い考えでお  
るんなら、あんたら きぎょう  
企業とさしちがえ  
ましよう。そんな気持ちでおる私らの  
こころ  
心が、あんたらに、ちょこつとでもわ  
かってもらえたらと…。無駄な日を費  
むだ ひ つい  
やしたかもしれんけれども、私らの子  
わたし し  
孫のためとと思ってがんばってきた次第  
そん おも しだい  
でございます。



ねんかん つきひ あいだ にん げんこく ふたり  
そして、4年間という月日の間には、9人おった原告のうち、もはや二人  
ひと な うえ なが ひ の  
という人が亡くなりました。まだこの上、長いこと引き延ばして、やれ  
こうさい さいこうさい ほうりつじょう  
高裁や、やれ最高裁やと、しちめんどうくさい法律上のことにかこつけて、

この問題を解決しようと思はせん…この問題が解決したあかつきに、私らが生きておられると、そう思っていますか。そんなねえ、なまやさしいね、甘ちょろい考えで、あんたらよう、ほんでも、生きておるなあ。

私も、愚痴ばかり並べましたけれども、一刻も早く、私らも病気にかかるとる以上、明日もしれんというさみしい気持ちでおるんです。一日も早く、勇気ある判決をいただいて、そうしてみんな仲良う笑って暮らせるような場を作ろうじゃありませんか。

どうか一つ裁判長さん、よろしく願ひします。

### ③遺族の意見陳述

裁判途中で亡くなった原告患者の夫

【41歳、漁業】

思えば、長い長い裁判でした。それも本日、結審を迎えることができましたけれども、喜んでいいのか、悲しんでいいのか、現在の僕の気持ちは複雑な気持ちでいっぱいです。亡き妻も、もう少し生きながらえて、今日の結審を、また判決を、心待ちにしていたと思います。



先ほどから、企業側の弁護人の話を聞きますと、みんな主張していただけますことくらいきますと、いったい僕の家内は何で死んでいったんでしょう。本当に悔しくてなりません。

眠れない夜に、下の〇〇が、どんな夢を見ているのか知らんけれども、「母ちゃん…」っと言って、にこっと笑っていることがあります。ほんとに、男の胸に突き刺さるものがあります。

また、上の〇〇も、せつかく行った名古屋の高校も途中で退学するようなことになりました。家内が生きていたら身を粉にしてでも働いて、高校生活を続けさせたと思ひます。

それで、企業側の弁護士さんたちも、人の子であり、人の親であるはずで。この問題は、いや、このぼくたちの家庭の悲劇は、もしあなた方に変わっていたら、いったい

どのようにおもに思われます…。  
 夜更よるふけた磯津いそづの町まちに、怒いかりの渦うずが4つちち（父ちちと子供こども3人）捲まいているというわすことを忘わすれないでほしいとおも思います。  
 最後さいごに、裁判長さいばんちやうにねがいすることは、一日いちにちも早くはや公明正こうめいせい大な、すがすがしい判決はんけつをされんことを、せつに、せつにねがいしてお終わらせていただきます。

裁判途中さいばんちゆうで亡なくなった原告患者げんこくかんじやの子こ 【16歳さい】

長ながかった公害裁判こうがいさいばんも、いよいよ結審けっしんとなりました。  
 母ははと高校生活こうこうせいかつを奪うばった公害こうがいを憎にくいと思おもいます。  
 幼おきない妹いもうとや弟おとうとが、日ひに日ひに母ははのことを思おもい、悲かなしんでいるのを見みているとかわいそうでなりません。  
 一日いちにちも早くはや、きれいな空気くうきの吸すえる四日市よっかいちに、公害こうがいのない、住すみよしやかいい社会しやかいにしてほしいと思おもいます。  
 裁判長さいばんちやうさん、一日いちにちも早くはや正ただしい判決はんけつをしてください。亡なき母ははもそのことを望のぞんでおると思おもいます。



④判決「原告患者勝訴」

判決（主文）

被告ひこくは、各自連帯かくじれんたいして、原告げんこくらに対し、  
 計けい8821万1823円を支払しはらえ。この判決はんけつは仮かりに執行しっこうすることができる。

判決（理由）

- 被告ひこくら工場こうじやうは33年ねんないし35年ねんごろ本格操業ほんかくそうぎやうにはいり、稼動開始後かどうかいしご、重油等じゅうゆとうを使用しやうし、硫酸酸化物等いおうさんかぶつとうのばい煙えんを継続けいぞくして大気中たいきちゆうに排出はいしゆつしていた。
- 原告げんこくらは、36年ねんから40年ねんまでの間あいだに閉そく性肺疾患せいはいしつかんに罹患りかんしたが、主要因子しゅよういんしは、被告ひこくから排出はいしゆつする硫酸酸化物いおうさんかぶつを主おもにした大気汚染たいきおせんであると認められる。
- 被告ひこくら工場こうじやうは、集团的に立地しゅうだんできし、ばい煙りっちの排出えんを継続はいしゆつしているから、協同不法きやうどうふほう行為こういが成立する。一部の被告いちぶの硫酸酸化物いおうさんかぶつは少量しょうりやうであるが、他の被告たと強い関連ひこく共同性きやうどうせいがあるので、協同不法行為きやうどうふほうの責任せきにんは免れない。

# 7. 裁判の成果とその後

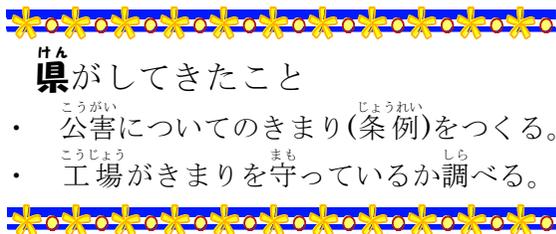
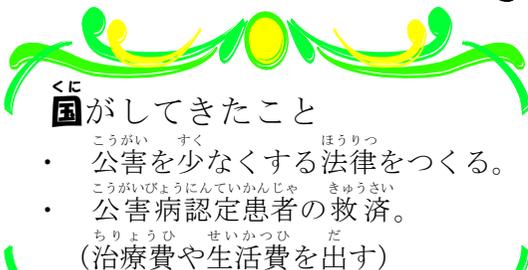
はんけつぶん

判決文より

「人の生命、身体に危険があるような汚染物質を出す時、企業は経済性を  
度外視して世界最高の技術知識を動員して防止すべきである。」

## それぞれの動き

その後、各企業は公害を二度と起こさないための努力と研究を続けまし  
た。現在、四日市のコンビナート各社の公害防止設備は、世界でも最高の  
水準を誇っています。そして、世界各国から四日市の公害防止技術を学ば  
うとやってくる人たちもたくさんいます。



の だ ゆきかず  
野田之一さん  
しょうそはんけつほうこくしゅうかい ことば  
(勝訴判決報告集会での言葉)  
さいばん か  
裁判には勝ちました。しかし、  
こうがい  
これで公害がなくなったわけ  
はありません。公害がなくなった  
とき  
時に、「ありがとうございます。」  
とあいさつをさせてもらいます。  
きょう さいばん おうえん  
今日のところは、裁判の応援をあ  
りがとうございましたというあ  
いさつにとどめます。

## ふ か きん 賦課金

こうじょう だ にさんかいおう たい  
工場が出すけむり(二酸化硫黄)に対  
してかかるお金のことを「賦課金」と言  
います。工場は、けむりを出す分だけ  
かね はら  
お金を払わなくてはならないこと  
になっており、このお金は国が集めて  
こうがいびょうかんじゃ ちりょう つか  
公害病患者の治療などに使っていま  
す。また各工場では、この煙が出ない  
ように努力をしています。

## の こ ち ん だ い 8. 残った問題

### かんじゅ ①患者たち

こうがいはっせい はんせいきいじょう いま こうがいびょう ひと  
公害発生から半世紀以上たった今でも、公害病とたたかっている人たちがいます。  
かんじゅ こうがい ようす し せだい こうれいか すず  
また、患者をはじめ、公害がひどかったころの様子を知っている世代の高齢化が進  
でおり、記憶をどうやって後の世に伝えていくかが課題となっています。

こうがいびょうにんていかんじゅさう ねん がつげんざい にん  
(公害病認定患者数…2023年8月現在で 285人)

### わす かた べ つづ の だ さわい ②忘れないように～語り部を続けた野田さん、澤井さん～

## の だ ゆきかず はなし ☆ 野田之一さんのお話

げんこく まよ さいばんちゅう なに ざつおん  
原告になるときは、いろいろ迷いがあったり、裁判中は、何かと雑音が  
はい き おも さいばん か こうがい  
入ったりで気が重なることもあったが、それも、裁判で勝ち、「公害がよ  
うなってきたんは、おまんらのおかげや・・・」なんて言われると、裁判やっ  
てよかったなあとおも  
思った。

ねん 20年もたつと、こうがいさいばん わす びょういん こうがいかんじゅ  
だけど、20年もたつと、公害裁判のことは忘れられ、病院や公害患者

なか さいばん し みみ  
の中からも「裁判って、知らんなあ・・・」といったことを耳にすると、  
さびしい気がする。

こうじょう ぎょうせい さいばん こうがい かんじゃ くる  
工場や行政は、裁判までしなければならなかったほど公害と、患者の苦し  
みがあつたこと、今も続いていることを忘れんようにしてほしいと思う。

ねん がつ はんけつ しゅうねん  
(1992年7月～判決20周年にあたって～)

の だ げんこくだん じゅうみん さいばん とお けんこう  
野田さんをはじめとする原告団、そして住民たちは、裁判を通して、みんなの健康と  
じんけん まも うんどう つづ  
人権を守るための運動を続けたのでした。

げんざい かいふく くる あおぞら もと しょうそ ねん  
現在ではずいぶん空気もきれいになり、青空も戻ってきました。しかし勝訴から52年  
たった今(2024年現在)でも、ぜん息に苦しむ人たちがいます。公害は終わったと言え  
るのでしょうか。

しょうがい じぶん こうがいたいけん しぜん たいせつ つた かつどう つづ の だ  
生涯にわたって、自分の公害体験や自然の大切さを伝える活動を続けた野田さんや  
さわい おも う つ だれ  
澤井さん。その思いを受け継いでいくのは誰でしょうか。

## さわい よしろう しょうちゅうがくせい 澤井余志郎さんより～小中学生のみなさんへ～

こうがい つた こうがい じじつ じったい し はじ  
公害のことを伝えるには、まず公害の事実や実態を知ることから始めよ  
う、苦しんでいる被害者や住民のありようを知ることから始めようと思  
いました。そして、「ありのまま書く、話し合う、行動する。」ということ  
をこころ こうがい きろく うんどう い  
心にかけて公害を記録し、運動に活かしてきました。

ひと はなし ととき ところ かよ あ にんげんかんけい ひと  
人と話をする時には、心が通い合う人間関係ができてはじめて、その人  
と本当の話ができます。そうして患者さんのお話をテープに録音し、話さ  
れた言葉をそのまま聞き書きをし、ガリ版文集にしてみました。

くさい かな くる りょうし ほっさ し おも  
くさい魚で苦しめられた漁師、ぜんそく発作で死ぬ思いをした(してい  
る)公害患者。洗濯物がすすで汚されたり、赤ん坊が乳を吐いたりして困  
った母親たち、ついには命を落とした人たち…。こうした、公害に苦しんだ  
ひとびと いま こうがいたいさく すず  
人々のうえに今があり、公害対策が進んだことを、しっかりとおぼえてお  
かなければならないと思います。同じあやまちを二度とくりかえさないた  
めに。

さんこうとしょ しりょう  
《参考図書・資料》

さわいよしろうへん さかな しょうもん  
澤井余志郎編『くさい魚とぜんそくの証文』

よっかいちこうがいきろくしゃんしゅうへんしゅういんかい よっかいちこうがいきろくしゃんしゅう  
四日市公害記録写真集編集委員会『四日市公害記録写真集』

こうがい きろく かい ばんぶんしゅう きろく こうがい  
公害を記録する会 ガリ版文集『記録・公害』

よっかいちさいせい こうがいきしみんじゅく  
四日市再生「公害市民塾」ホームページ

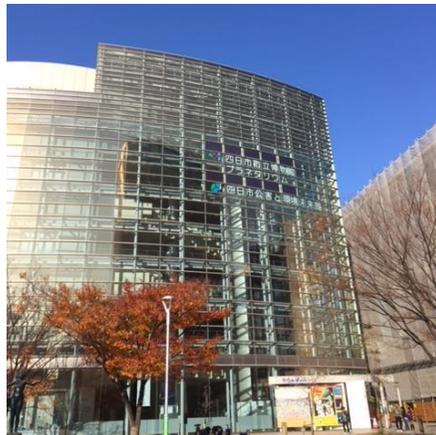
よっかいちし よっかいちこうがいしりょうかん ねんとうじ  
四日市市ホームページ「四日市公害資料館」(2004年当時)

『1999年度石油の作文コンクール』



しょうがくせい はなし のだ さわい  
小学生に話をする野田さんと澤井さん

かた べ けんない おお しょうがっこう おとず こ やさ  
語り部として県内の多くの小学校を訪れ、いつも子どもたちに優しく、ていねい  
かた のだ ゆきかず ひだり さわい よしろう みぎ しゃしん ねんとうじ  
に語りかけた野田之一さん(左)と澤井余志郎さん(右)。(写真は2010年当時)



よっかいち  
そらんぼ四日市

ねん がつ かいかん よっかいちこうがい かんきょうみらいかん よっかいちしりつはくぶつかん  
2015年3月に開館した「四日市公害と環境未来館」と、四日市市立博物館・プラ  
あ しせつ よっかいちし れきし こうがい まな きてん  
ネタリウムを合わせた施設。四日市市の歴史と公害についての、学びの基点となっ  
ている。

## 《あとがき》

この教材を最初に作成したのは2004年。「自身を含め、公害のことを直接知らない子どもたちと先生と一緒に学習できる資料を作ろう。」という思いでした。澤井余志郎さんや、先輩教員の阪倉芳一さんをはじめ、四日市再生「公害市民塾」の方々から多くのアドバイスをいただいていたのでした。

それから20年。子どもたちの学習環境は大きく変わり、今では一人一台のタブレットPCを活用して授業が進められるようになりました。2015年に開館した「四日市公害と環境未来館」の見学や、そのホームページ上にある様々な映像資料の視聴などもできるようになりました。

しかしこの間、「四日市公害と環境未来館」に多くの子どもたちが訪れるようになったのを見届けるかのように、この教材の内容の軸である澤井余志郎さんと野田之一さんが、お亡くなりになりました。

これらの理由と、現在におけるコンプライアンス意識や人権意識の高まりをふまえ、教材の内容を一部改訂し、さらには子どもたちや先生方が自由に活用していただけるよう、データで改訂版を発行することとなりました。

未来を担う子どもたちの学習が、より一層充実することを願っています。

2024年7月 田中敏貴

## 四日市公害と人権

～忘れないように～

著者 田中 敏貴 ・ 阪倉 芳一

協力 野田 之一 ・ 澤井余志郎 ・ 伊藤 三男

発行

(初版) 2004年10月1日

三重県人権問題研究所（現在は反差別・人権研究所みえ）

(改訂版) 2024年7月24日

四日市再生「公害市民塾」